

## 政府・東京電力中長期対策会議 研究開発推進本部 第3回会合 議事概要

日 時： 平成24年2月27日(月)11:45～12:45

場 所： 東京電力 本店 本館1201会議室

出席者：【本部長】北神大臣政務官(経産省)

【副本部長】園田大臣政務官(内閣府)，神本大臣政務官(文科省)

【構成員】朝日委員(経産省)，相澤委員(東電)，

加藤委員(文科省)，横溝委員(JAEA)，金山委員(産総研)，岡村委員(東芝)，丸委員(日立)，尾本委員(原子力委員会)，井上顧問，横山常務(電中研)，浅間教授(東大)，他

議 事：

### 1. 冒頭ご挨拶(北神大臣政務官)

- ・ 2週間程前に現場を訪問したが、厳しい環境下でも士気が高く頼もしく感じた。
- ・ 2/24に技術カタログ検討ワークショップが開催され、3/14には国際シンポジウムも予定されているなど、国内外にも課題を共有しつつある。
- ・ 廃止措置に向けた取組を進めることで、地域住民の方々に早くご帰還いただくことや、国民の安心感を得るとというのが一番の目的である。目標を共有して、出来るだけ効率的、効果的に進めてまいりたい。

### 2. 個別研究プロジェクトの進捗状況

(炉内状況把握・解析に係る研究開発)

資料2に基づき、サブワーキングチーム事務局より説明。

- ・ 実機での調査結果と解析とのインターフェースが重要。
- ・ データベースを整備して国際協力を進めていく。
- ・ PCVの2ndエントリーも有用なインプットデータになると考える。

### 3. 平成23年度研究開発プロジェクトの評価の進め方(案)

- ・ 資料3に基づき、事務局より説明。

### 4. 技術カタログ検討ワークショップの開催報告

- ・ 資料4-1、4-2に基づき、事務局より説明

### 5. 国際シンポジウムの開催について

- ・ 資料5に基づき、事務局より説明。

### 6. 研究開発拠点構想

資料6-1、6-2に基づき、JAEA及びメーカー(東芝、日立GE)より説明。

- ・ 開発した機器が現場で使えるかどうかの成否は、研究開発拠点にかかっていると

- 考える。非管理区域でモックアップできる場所を費用をかけずにつくることは効率的である。効率的に開発する観点でも、国の支援が不可欠である。(浅間教授)
- ・ どういった工法や技術が必要で、現状何が足りていないか、の検討が先に必要なのではないか。例えば、1F4号機をモックアップとして活用する方法などもあるのではないか。どういった過程で意思決定をしたかをトレーサビリティとして残しておくことも必要。(原子力委員会)
  - ・ まずはグランドデザインが必要という認識もあるが、現状は箱物が先行してしまっている面もある。中身についてはもう少ししっかりと考える必要がある。(東京電力)
  - ・ すぐに答えがでるものでないが、問題意識を共有しながら引き続き検討を進めていきたい。(経産省)

## 7. 終了ご挨拶

(北神大臣政務官)

- ・ 研究開発PJは、本年度事業の評価と来年度計画を検討していきたい。
- ・ 研究開発拠点に関しては、実施主体やスケジュールを含め、様々な意見を踏まえた上で、本部としての構想を一ヶ月くらいでまとめていきたい。
- ・ 官民分担については、難易度が高く広く裨益する研究開発については国も関与し、廃炉に向けた現場作業に係るものは東電が主体、という仕切りであると理解している。
- ・ 研究開発拠点等の効率的な運営のためには、例えば技術研究組合のようなものをつくって一体的に運用するようなことも含めて検討して欲しい。

(園田大臣政務官)

- ・ 難易度の高い課題が多いが、政府としても国のしっかりとしたイニシアチブ、責任の下で進めていきたい。様々な意見があるので、時間の限られた中でしっかりと議論していきたい。

## 8. その他

- ・ 第4回の会合は以下の日程で開催する。  
平成24年3月26日(月)11時10分頃～

以上